

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第1回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

2 議題

（1）協議（公開・非公開の別）

①座長、副座長の選出（公開）

②今後の進め方について（高田区の活性化について）（公開）

3 開催日時

令和3年9月6日（月）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：浦壁澄子、小川善司、小嶋清介、高野恒男（副会長）、富田晃、
本城文夫（会長）、松倉康雄、村田秀夫（欠席：宮崎陽）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、五十嵐主任

8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第3協議（1）座長、副座長の選出—

【本城会長】

座長、副座長の選出を行う。

- ・ 他薦により座長は富田委員、副座長は小川委員に決した。

—次第3協議（2）今後の進め方について（高田区の活性化について）—

【富田座長】

高田区の活性化に係る各委員の考えについて発言を求める。

【浦壁委員】

- ・（以前に行ったグループ協議で出た意見の）高田区を4つのブロックに分けて地域住民と意見交換するというのはよいこと。地域の人と一緒にやることで課題や対応が見えてくる。我々委員だけでは難しい。高田区は広く、町内によって事情は違う。以前、町内会長と意見交換をしたが、地域の範囲が広くて一人3分くらいで自己紹介的なもので終わった。

【小川副座長】

- ・ひとりひとりの想いの積み上げが地域の活性化に繋がると思う。例えば、市の「地域の宝」に認定されたものはそれぞれ夢中になって周りをまきこんでおり、そういうものを積み上げていく。まず、住んでいる人が自発的に活動することが原点となる。
- ・最近、市で、今まではまちを例えばA4サイズからA3サイズへ拡大する方向性だったが、人口減少の中、もとのA4サイズのまちへ戻すという方向性の変化がみられる。市の都市整備課が施策をいろいろ考えて話に来られ、本町6丁目、本町7丁目、仲町6丁目、大町5丁目、西城町4丁目の高田駅前より北側の5町内を重点地区として注目している。この地区は雁木が残り、町家交流館高田小町があり、ボランティア活動から始まった高田世界館に15,000人から20,000人が来るようになっている。市も高田世界館の隣地を買い取り、大型バスが止められるようになっている。旧今井染物屋も開館している。警女ミュージアム高田もあり、その並びの景観が整ってきており、市は補助率5/6の景観形成の支援を提案してきている。

【小嶋委員】

- ・雁木や空き家は全国的な問題。住んでいる住民が減少し、若者がいなくなっている。全体的に対応するのは大変なので、重点的に対応していくのがよい。

【高野副会長】

- ・何をもって中心市街地とするのか。人口減少、少子高齢化、若者が住まない等によ

り活性化していかない。住みたいまち、住みつづけたいまちになるとよい。

- ・町家をリノベーションしている若者がおり、これを応援する。空き家に住みたい人もいるので誘導する。
- ・日常生活に必要な教育、商業、医療、運動、子育てに係る施設がある程度整っていることが必要。
- ・歴史的なこと等、まちの魅力を発見して大いに発信することが大事。
- ・まちは広がるだけでは過疎になる。コンパクトシティ化が必要。
- ・若者に住んでもらう。若者を誘導する。
- ・自分のまちに愛着を持つと、もっとよくなる。

【松倉委員】

- ・市の都市整備課から話が来ており、市と地域の落としどころをどうするか考えている。雁木と空き家を何とかしたい。私は空き家を留守家と呼んでいる。中に家財道具があるので、人に見せようにも見せられない。この状況をどうしようか悩んでいる。3年前に東京などに住む留守家の所有者に今後どうするのかアンケートをとった。「いずれ処分する」「売りたい」といった回答があったが、今も進展しない。それぞれの家庭の事情があり我々は踏み込めない。どう踏み込むか市とも話した。市に関係窓口があるが、皆さん知らない。もっと周知してほしいと市に話した。
- ・区内を4ブロックに分けて意見交換すれば、いろいろな話がでてくる。何か話の柱をつくって意見交換すれば、また違ってくると思う。

【村田委員】

- ・コロナ禍でのまちづくりを考えなければいけない。町内行事が中止になったり、縮小したり、人が人に会う機会が少なくなった。工夫して活動しているところもあり、見守りながら考えたい。
- ・オーレンプラザで行われているまちかどピアノが2年目になり嬉しい。自分も参加しているが、前より参加者が増えている。1人15分で、空いている時間が少ないくらいだ。こういう動きは発展する。これは音楽を通じた動きである。
- ・あすとぴあ高田に美術展を観に行った。コロナ禍でも絵画、彫刻等を展示している。楽しみ、人とつながることはいい動きだ。
- ・ボルダリング、スケートボードなどのニュースポーツの施設が高田のまちなかに、

民間や市の投資でできると年代を超えて楽しめる。

- ・空き家、空き地で農作業を皆でできれば楽しいと思う。私の町内でも空き家や空き地はたくさんある。感染防止をしながら、共同の畑として収穫することで活性化になる。
- ・文化、芸術、ニュースポーツ、農作業など、まちづくりはいろいろな分野で可能性に満ちている。
- ・若い世代に希望を持たせる方向性を提言できればよいと思う。

【本城会長】

- ・地域協議会の役割を考えると、区内を4ブロックに分けて町内会、市民団体に呼び掛けて、一緒に高田のまちをどうしたらいいのかを話し合う機会をつくるのが今一番必要だと思う。1年に1回程度の開催になるかもしれない。例えば、高田区には歴史的文化的な史跡などがたくさんある。我々が主導するのではなく、実行委員会などでミニ観光みたいな形でやったらどうか。区内をみると駅の北エリア、大町、南本町などでまちづくり活動が行われている。そういったまちづくりの団体、地域活動支援事業の採択・不採択団体などと意見交換する機会があれば、我々への注文もあるだろうし、我々もまちづくりについて一緒に考える。地域によって意見は違うと思う。雁木町家と団地でも違う。先に行政についての意見もあったが、地域の声を拾い上げて行政につなげていく。
- ・世代間交流、三世代交流が必要。若者、女性、高齢者のつながりがだんだん薄れてきている。

【富田座長】

- ・区内のすこやかサロンに出て、JAや参加者といろいろ話している。公民館でレルヒさんの話を聞いた。この区ではいろいろなことが行われている。これを具体的にどう実らせていくかだと思う。
- ・市は平成28年度から街の再生事業をやり、高田世界館などよくなった。これからはいかに肉を付けていくかだと思う。
- ・やる気のある人をいかにつくるかだと思う。
- ・単なる問題提起で終わっては意味がない。やるには時間やパワーがいる。
- ・まだまだ高田区のことを知らない。まずは現状を知ることだと思う。

- ・高田区地域協議会の過去の活動の記録をみたが、町内会と議論しても問題提起だけ。地域協議会委員は時間がなかなかないと思う。だから行政に任せる。住民自治は住民がいろいろ考えてやることであり、それが活性化につながる。

各委員からの発言が一巡した。本日は忌憚のない意見を言う場としたい。ほかに委員の発言を求める。

【高野副会長】

- ・以前、町内会長と意見交換をした。会長、副会長に出席してもらおうと高齢者ばかり。話すと要望事項で、この場は必要なのかと思った。それより、今活動している若者と話した方が将来的によいと思う。年配者は考えることがかたく、新しいアイデアがでない。若者が住みたいまちに力を向けた方がよい。

【小川副座長】

- ・最近の若者は行動が早い。自分の好きなことに夢中になってやる。大町5丁目のマルシェなど、多くの人が出る。やりたい人が多くいる。地域の問題点が挙がってきても、それをどうするのか、誰がやるのか、先頭きってやる人がいなければどうしようもない。南本町3丁目の催しは大変盛り上がる。先頭に立ってやる人がいるからだ。
- ・冒頭の委員一巡時の私の発言を補足する。行政を組み込むということは、法的な制約がでてくることになる。例えば、南本町3丁目のT字路のところにセブンイレブンができた。雁木があった通学路の歩道上に大型看板ができた。子供達が通りに入るか駐車場に入るかしないと歩けない。おそらく南本町3丁目につくらないでほしいと抗議をしたと思う。でも雁木は私有地で、なんで駄目なんだとなってしまう。市は考えた。雁木の任意協定をレベルアップしたものを地域で結び、そこに市も加わって法的拘束力も加わる。もし雁木に何かつくることになっても、この地域にはとり決めがあって駄目と市が言える。今度、我々と市の都市整備課で話し合いをする。先ほどのようになれば、空き家のところに黄色の建物をつくることになっても、地域でとり決めをしているのでこの色は駄目と言える。今まではお願いにいらしても、私の土地なのに何を言ってるんだと退けられていた。今は先導して突破口をつくる人達が動くことだ。

【浦壁委員】

- ・我々は地域住民の声を聞いて行政に働きかけるパイプ役の役割が大きい。我々が討議できることは限られる。例えば空き家は個人の所有権などが絡み、地域協議会がどうこうできる問題ではない。中心市街地の活性化といっても大きなものを含んでいる。的を絞って考えなければならない。
- ・コロナ禍でこのライフスタイルは数年つづくと思う。今までの賑わい創出やお祭りの的なものは変わってくる。他のやり方で賑わいの創出を考えなければならない。
- ・若者がグループで市民活動的なものを行っている。そういったところに高田の活性化に関する意見を聞いて、その中から絞って解決策につなげる。

【高野副会長】

- ・若者と、どこに問題があるのか、どうしたらもっとよくなるか等、話すのはよいこと。町内会長と話しても結局は町内のことばかり。
- ・区内を4ブロックに分けて意見交換という意見があるが、あまり賛成しない。それよりも若者や現在活動している人達との話し合いの方が大事だと思う。

【本城会長】

- ・地域との意見交換で本日いろいろな意見が出ているが、やる場合にどういう呼びかけをするか。どこかでやるにしても町内会が知らないとなると、ギクシャクする要因になるかもしれない。町内会長に限定せず、幅広く声かけをしてオープンにやる。

【松倉委員】

- ・区内をブロックに分けていろいろな代表者を集めて意見交換をする。その中で若者を呼ぶ。私の地域では青年会等が活動している。先ほど話した市との話し合いにも若者から出てもらっている。

【小川副座長】

- ・若者が移住してきている。四ヶ所（津有区）かいわいで家を直して盛り上がってきている。
- ・空き家を直すとなったとき、誰がやってくれるのか。誰もこない。町内会長は問題点を言うだけ。地域協議会の役割は価値観を共有して、皆でこうやったらいいと話し合い、その中で地域活動支援事業の申請により合致するのであれば応援することだと思う。

【高野副会長】

- ・今活動している人達をもっと応援する。口ばかりで、ただやれやれ言ってもできない。

【本城会長】

- ・ノウハウが分からない人もいるので、交流することも大事だと思う。例えば、我々はこればかりやってきたが、こちらではこうやっているとか、そういうきっかけがあれば更に盛り上がっていくと思う。

【高野副会長】

- ・今までは我々が地域活動をして市は動かない。ある程度地域でやっている途中から市が横から出てきて「何かやりますか」と言う。市はまるっきりお客さんだった。

【小川副座長】

- ・ここへきて市がいろいろなことを考えてきて、以前とは違ってきている。

<協議の結果>

本日は忌憚のない意見を言う場とし、次回の分科会までに今日出た意見をもとに座長と副座長が各委員と話し合い、次回の話し合いに役立てることとした。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city. joetsu. lg. jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。